



2 エッセイ／“おかね”を語る  
歴史という実験装置の中で 脳科学者 中野信子



4 インタビュー／扉を開く  
大山健太郎 アイリスグループ会長 アイリスオーヤマ社長  
生活者の視点で需要を創造する

9 地域の底力——和歌山県有田郡湯浅町  
古からの歴史を礎に未来を目指す  
醤油発祥の地 和歌山県湯浅町



16 対談／守・破・創  
佐藤勝彦 理学博士・自然科学研究機構 機構長  
木内登英 日本銀行政策委員会審議委員  
宇宙創成の謎を解明する原動力は「自分は何者か」への探求心

20 お金の源——素材の歴史と作り方 最終回  
日本近代紙幣の紙 稲葉政満 東京藝術大学大学院教授

日本銀行のレポートから

24 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2015年10月—

28 「金融システムレポート」—2015年10月—

32 新日銀ネットは2015年10月に全面稼働開始

33 FOCUS → BOJ ⑦ 金融研究所「貨幣博物館」の仕事  
貨幣博物館が2015年11月にリニューアルオープンしました



38 トピックス  
「にちぎん体験2015」を開催

39 AIR MAIL from Zimbabwe  
ハイパーインフレからデフレへ

## 表紙のごとば



表紙・画 北村公司

日本銀行熊本支店は、日本銀行の第一二番目の支店として、大正六年(一九一七)に開設されました。その当時、九州の本行支店は、門司の西部支店(現北九州支店)のみだったので、各県は熾烈な支店誘致競争を繰り広げたそうです。最終的には、九州の軍事、行政、教育の中心地であった熊本に支店が開設され、昭和十八年(一九四三)に鹿児島支店が開設されるまでの約二五年の間、熊本のほか鹿児島・宮崎・沖縄の四県を統轄していました。今回表紙に掲載した初代店舗は、熊本城にほど近い船馬町の船馬橋の際に建てられました。木造平屋建てながら、化粧レンガ貼りによる洋風建築は、熊本の町並みの中で異彩を放っていたそうです。昭和二十八年(一九五三)に九州地方北部を中心に発生した記録的な集中豪雨による西日本水害で被災したことをきっかけに、昭和三十二年(一九五七)、現在の店舗(山崎町)に移転しました。初代店舗は、約四〇年にわたり、熊本を見守り続けました。